

# 同窓会だより

●発行  
**千葉県立船橋高等学校同窓会**  
〒273-0002 千葉県船橋市東船橋6-1-1  
ホームページ <https://dousoukai.site/kenfuna/>  
E-mail funaobog@gmail.com  
●印刷 (株)サラト  
姫路市北条宮の町172番地  
TEL 079-284-1380

題字/小原天籟先生



仮設校舎の様子

## 母校は今

年明けに百周年関連行事(船橋大神宮での百  
人一首大会、在校生・卒業生合同演奏会)を終え、  
「船高第二世紀」へと歩み始めた母校は今、学習  
環境においてもちょうど過渡期にあるといえる。  
今年には炎暑のなか、南館及び新館(社会科・理科・  
芸術科・図書室・部室)の怒涛の引越作業を経て、  
夏休み明けからは仮設校舎で授業が再開された。  
そこで、新しい仮設校舎について、先生と生徒  
の声や名言(迷言?)をいくつか紹介したい。  
「運動だと思って歩くしかない」「渡り廊下が  
動脈硬化の血流のように滞る」(公民科・昭和  
五十五年卒の中松先生)、「来年度にはHR教室

になる(注:南館・新館の改修工事後は本館の  
教室が仮設校舎に移る)ので仕方ないが、理科  
教室は全般的に狭くなった(理科・昭和五十六  
年卒の大堀先生)、「理科が一つのストリートに並  
んだことで、以前よりも理科の教員同士のコミュ  
ニケーションが活発になった」(理科・昭和六十  
年卒の小原先生)、「こと音楽室に限って言えば  
広くなって快適。もう南館四階には戻りたくな  
い」(芸術科・佐々木先生)、「以前より手狭には  
なったが、一階になったことで帰りに図書室に  
寄ってくれる生徒が増えた」(実習助手・近藤先  
生)……、このようなお声を頂戴した。

生徒からは、「築五十年超の校舎に慣れてし  
まったので本校舎のほうが落ち着く」「エアコン  
の効きが良く、すごく涼しい、むしろ寒い」「広  
すぎて迷う、白すぎて迷う」「振動が伝わりやす  
く、声も足音もよく響く。響くどころか人が走  
ると地震が起きる」「新築の臭いに慣れない」「雨  
の日の渡り廊下は絶望的」「廊下が殺風景」とい  
った率直なコメントが多数寄せられたほか、「廊下  
が真っ白で素朴だから、廊下から教室を覗くと  
ドアが額縁のように見えて、まるで絵画や写真  
のよう」「文化祭をやったら各団体の色がより個  
性的に表れそう」といった肯定的なコメントも  
あった。百周年は一見に如かず。もしよろしけれ  
ば来年度の文化祭や同窓会行事等に足をお運び  
いただき、改修工事で来冬が見納めになる懐か  
しい本館校舎をご覧いただくと同時に、迷路の  
ような新しい仮設校舎を探索されてはいかがだ  
ろうか。(編集◎:通常は許可なく校舎に入れま  
せん)

さて、学習環境のみならず、コロナ禍を経て  
形を変えた学校行事も多い。ここでは、九月  
二十五日に実施した「球技・スポーツ大会」に  
ついて触れることとする。  
二〇一八年(平成三十年)までは船橋市運動  
公園の陸上競技場にて「陸上競技大会」を行っ  
ていたが、その翌年の雨天中止と以降のコロナ  
禍により、近年、校内実施に変更になった体育  
行事が「スポーツ大会」である。加えて今年度

### 同窓生&在校生

(令和5年10月1日現在)

同窓会会員数 36,450人  
名簿登録数 36,066人  
うち全日制 29,377人 (中学含む)  
定時制 5,429人 (農業科含む)  
旧職員 1,260人  
住所不明者数 12,690人

在校生 1,272人  
全日制 男621人 女451人 計1,072人  
定時制 男117人 女83人 計200人  
教職員 125人  
全日制86人 定時制39人  
(うち同窓生13人)

国語 教諭 宮崎(菊池)春菜(平成十八年卒)

ご挨拶



同窓会会長  
島崎 喜一 (昭和48年卒)

スタート台で緊張の一瞬。水泳場に響く軽やかな合図でレースが始まる。

記憶を辿ると一年の夏休み、二種目で二十五m泳げない何人かが宮本中学校の敷地内にあった船高プールで補習を受講。海神小・中には、その名に違いプールがなかったため高校の授業が人生初水泳だった。言い訳は兎も角、船高百年史を繰ると一九七〇年にはないが続く数年に「一年水泳特別指導」という記載。これだ。ただし、夏休みの補習では熱心な恩師の指導に込められず及第点には至らなかった。泳ぐことが意味を持つ人生にならなければ支障なしのはずだった。ところが予期せぬ出来事に遭遇。ひょんなことから四十年代半ばにJAPANマスターズに出場、辰巴国際水泳場で一瞬の水飛沫、大会デビューそして水泳人生がスタートした。それも高校で習得できなかった平泳ぎがスタイルワンになるうとは摩訶不思議。爾来毎年夏にはJAPANマスターズで東奔西走。遅咲きのスイマーには入賞が精一杯の成果で連続出場が唯一の自慢ではあるもの。漸くJAPANに二十一回出場。好調を続けていたつもりが、好事魔多し、直後の故障には立ち止まざるを得なかった。一年後に大会出場を目標に練習を再開。最近展望が開けてはきたものの未だ道半ば。思えば高校一年の宿題をやり遂げようとしているような気もするが、何より水泳は楽しい。飛込み、折返し、二百m先のゴール板にタッチした時の安堵感と達成感はいえたい。マスターズで見かけたら声をかけてください。



千葉県立船橋高等学校  
校長 風戸 正

同窓会の皆様には、日頃から本校の教育活動への御支援、御協力を賜り心より感謝申し上げます。今年度、県立船橋高等学校の校長として着任いたしました風戸(かざと)と申します。どうぞよろしくお願ひします。

百年の節目に、これまでの教育の礎であった「専心研字を校訓」と定め、船高第二世紀を歩み出しています。また、教育目標を「他敬愛の精神に立ち、次世代を担うグローバルで活躍できる人材の育成」として、生徒一人ひとりが人生設計を確立し目標に向けた進路実現が叶うよう全力を挙げて取り組んでおります。

全日制は、この三年間において、卒業学年の半数以上である百八十名を超える生徒が、現役で国立大学に進学しています。特に、東工大や一橋大への進学者数が大幅に増加しており、東大を含めると、昨年度は五十名近くの現役生徒が進学しました。数値目標で第一志望大学現役合格率五十五％を掲げているものの達成できずにはありますが、現役の進学率は八十五％と高い数値となっております。教育活動では、四十五分七時間の時間割を編成し、多くの科目を学ばせ幅広い教養と学力の定着を図っています。また、SSH研究指定校として理数教育の充実を図るとともに、全校体制で探究力を養う取組を展開しています。文化祭は、保護者の方々と四年振りととなる全面公開でお迎えすることとし、OB・OGをはじめ、本校を目指す中学生など二日間約八千五百人の来場者がありました。また、部活動においては、どの部も活動が盛んであり、放送委員会、陶芸部が全国大会出場を果たしました。定時制は、令和四年度から県立行徳高等学校の定時制と統合し、総合学科として新たにスタートし二年目を迎えています。手探りの中の総合学科の運営並びに統合による変則的な教育課程での活動になりましたが、生徒は一生懸命登校し、熱心に授業や諸活動に取り組みます。先生方も夕方生徒の登校を迎え、声掛けするなど、生徒とのコミュニケーションを大切に



千葉県立船橋高等学校  
副校長 石井 隆

今年度、県立船橋高等学校(定時制)の課程に着任しました石井と申します。

同窓会の皆様には、本校の教育活動に対し、多大な御支援と御協力を賜り、心から感謝申し上げます。

現在、生活環境はコロナ禍前に戻りつつあります。振り返れば、部活動の大会やコンクールなどは中止を余儀なくされました。また、学校行事などは中止または縮小され、代々脈絡と続いてきた先輩から受け継がれるはずの伝統とかノウハウが滞り、今年に入つて、いざ計画・企画をする際に戸惑う生徒たちを見る場面がありました。このような中、学校生活においては、ようやく活気を取り戻してきています。今後の生徒たちの活躍が楽しみです。

さて、話は変わりますが、定時制の一部分を紹介しますが、希望する生徒は、午後五時から夕食を摂っています。食堂にて一食三百八十円のお弁当を食べています。味噌汁などの汁物、デザートが付いていて、おかず・ご飯は温かい状態で食べられます。その後、午後五時四十五分から午後九時まで四時間の授業となります。余談ですが、私は何回か授業を見学に行きましたが、寝ている生徒はほぼ皆無でした。生徒の「勉強をしよう」という目的意識を、肌で感じる機会となりました。



千葉県立船橋高等学校  
事務主幹 川島 武

四時間の授業が終わると、一時間ほどの、主に部活動の時間となります。本校定時制の特徴の一つとして、この部活動が盛んにおこなわれていることが挙げられます。今年度については、サッカー部、剣道部、バドミントン部が全国定通大会に出場しました。最後になりますが、この部活動の全国大会出場にあたり、同窓会の多大な御支援をいただきました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。ありがとうございます。

県立船橋高校同窓会の益々の御発展を祈念しております。

今年度より事務長として赴任しました川島と申します。よろしくお願ひします。同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動にご協力賜り心より感謝申し上げます。卒業生には元首相の野田佳彦さんをはじめ、各界を代表するような方を多く輩出した「伝統の重さ」を感じ、そして緊張ばかりの毎日でした。次の百周年に向けて、そのスタートとなる今を大切に、次代へと繋がるよう意識をもって学校運営にあたりたいと思います。

さて、本校では千葉県の大プロジェクトである千葉県有建物長寿命化計画により、校舎の改修工事が今年度より始まりました。今年から来年にかけて、新館と南館を改修し、その後は普通教室の入る本館の改修工事となります。体育館の改修工事を行う令和九年度まで続く大きな事業となっております。

この間、生徒をはじめ多くの方にご迷惑をおかけしますが、まずは生徒・職員の方の安心・安全を第一に考え、事業を進めてまいります。同窓会においても会議等でご不便をおかけしますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。

今後とも、船高の更なる発展に向け、皆様の変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年度 総会報告



令和5年度総会の模様

創立百周年記念演奏会の共催報告

令和五年一月二十二日に「千葉県立船橋高等学校創立百周年記念在校生・卒業生合同演奏会」が盛大に開催されました。この演奏会は同窓会の創立百周年記念事業として船高記念演奏会実行委員会と共催したもので、卒業生をはじめ在校生とその家族、演奏参加者の家族友人など多数の観客の皆さんが、特別編成のオーケストラと合唱団の演奏に魅了されました。なお詳細は九ページをご覧ください。

同窓会会計報告

同窓会の決算と予算については右下の表をご覧ください。収入の部は前年の繰越金を除くと主なものは入会金と同窓会運営費、春の同窓会費となります。

令和4年度の決算では入会金は払い込み時期を従来の入学時から卒業時に変更した新しい体制

令和4年度決算及び令和5年度予算

Table with 4 columns: 科目, 5年度予算, 4年度予算, 4年度決算. It details income and expenses for the 5th year.

Table with 4 columns: 科目, 5年度予算, 4年度予算, 4年度決算. It details expenses for the 5th year, including meeting fees, administrative costs, and support fees.

春の同窓会の開催が決定

コロナ禍による三年間のプランクを経ていよいよ令和六年二月十一日(日・祝)に開催することが決定しました。幹事学年となる昭和五十四年卒業の皆さんには待ちに待った同期の皆さんとの再会になることと思います。なお次の幹事学年は昭和五十五年の卒業生で以降順送りとなります。開催案内は最終ページをご覧ください。

結果的に入会金の復活と同窓会運営費の収入が増えたことにより単年度収支での黒字化が図れた

八月六日(日)に開催された総会では、令和四年度事業・決算の報告、令和五年度の事業計画・予算、役員改選、が承認されました。役員改正では、令和六年三月末で任期満了となる島崎会長の続投が承認され四月から二期目を務めることが決定しました。また同時に副会長の今村麻美氏(昭和四十六年卒)と監事の小川隆啓氏(昭和四十四年卒)が任期満了に伴い退任することが決定しました。なお後任人事は二期目の島崎会長により後日指名され令和六年度の総会での承認を待ちます。

Table titled '同窓会学年理事名簿' listing members and officers by graduation year from 1947 to 2023.

卒年(3月)別の学年理事の一覧となりますが理事が選出されていない学年があります。該当する学年は、卒業時に選出された学年代表または同期同窓会を開催した時の代表幹事などを基に学年理事を推薦してください。決定しましたら同窓会事務局までご一報ください。またご質問等がありましたら同様に願います。

# 船高の歴史より(二) 『研究紀要』について

山田敏明 (東葛飾高校講師 昭和四十九年卒)

▼船高でも受け継がれている年刊冊子  
船橋高校には、長期間毎年編集発行され、現在も続いている冊子が二つあります。

一つは全日制職員の研究雑誌、『研究紀要ー研究と実践の記録ー』

もう一つは、「千葉県立船橋高等学校校定時制/全国定時制創立十周年記念特集号」として一九五八(昭和三十三年)三月一日に創刊された定時制文芸部・生徒会出版委員会等による『篝火』です。

今回は、その二つの冊子のうち、『研究紀要ー研究と実践の記録ー』(以後『研究紀要』と略します)についてご紹介し、次回『篝火』についてご紹介いたします。

## ▼『研究紀要』の創刊

『研究紀要』は、一九七〇(昭和四十五年)年創刊、二〇二二(令和四)年まで、中断はありましたが、四十三号を数えています。発刊の趣旨については、当時の伊藤秀三校長先生が『創刊に寄せて』にその経緯を記していますので、引用します。

### 創刊に寄せて

学校長 伊藤秀三  
後期中等教育の普及が急激にすすみ、中学から高校への進学率は

八〇%ほどにも達してきており、高校教育義務化ともいわれている状況である。一方、科学技術の驚くべき進歩にもとづく経済社会の発展から、高等学校の学力水準が次第に引きあげられてきている。この結果として生徒の資質も極めて

幅広いものとなり、その教育内容も多様化する必要が生じてきている。この発展を続ける社会に対応し、正しい生き方をしてゆく生徒を育ててゆくための、教育にかけられた期待はきわめて大きいものである。教育はなんといっても教師その人によることはいまでもない。教師は常に自分自身の立場を意識してつとめると共に、教育の専門家として絶えず自己の研修に、また、生活のあり方にも課題をもち、積極的にこれに取り組んでゆくべきである。今日の高等学校の教育にあつては、教科の学習指導はもちろんのこと、生徒指導その他で極めて多くの問題をかかえている。

このたび教務の学習指導係が中心となって、研究紀要を発刊するようになったのは、まことに時宜になかったものといえる。その内容は担当する教科の研究もあり、学校行事、クラブ活動に関するもの、生徒の実態調査その他と多彩であるが、いずれにせよ旺盛な研

究意欲に支えられて課題が設定され、その研究成果が収録されたものである。これからも学校の置かれている現状に最も適した研究課題がどしどし設定され、その問題解決のための研究が進められ、さらに充実した校内研修に発展することを期待するものである。

昭和四十五年三月

## ▼『研究紀要』創刊号の内容

創刊号はB5判横書き、六十七頁、人文社印刷所(船高の卒業生が経営されていたのではないかと思います)、船高教務部、昭和四十五年三月三十一日発行となつています。

次に「目次」に記された表題と執筆された先生を掲載します。

副助詞「だに」の扱い方試論 佐藤光生

熱帯雨林の農耕について 鈴木正理

高根木戸・宮本台・海老ヶ作遺跡について 岡村勝亘

高校入学者選抜方法について 沢村甲吉

砲丸投げの技能評価についての一考察 石田 実

本校英語標準テストの結果とその分析 片岡達男

## 雑報・資料

生徒会顧問としての一年を生きて 宇野武朗

昭和四十四年度関西方面修学旅行の反省 二学年修学旅行係

生徒の学習生活の実態 教務部学習指導係

あるクラスの保護者の意見 小滝一夫

他校視察を実施して 教務部係

## 特別寄稿

音楽科教諭 故金田春雄氏を偲ぶ

## ▼『研究紀要』創刊時の背景

『研究紀要』が企画され、執筆がなされた一九六九(昭和四十四)年度は、船高の歴史の上で、翌年の創立五十周年を控え、いろいろな案件が進められていた年度です。

四月に理数科が設置され、学校食堂開始(カレライス八十円、やきそば五十円)、現校舎の本館が一九六六年に、南館が六八年の夏に完成し、年度当初から新校舎だけで授業することが可能になりました。文化祭が六月実施となったのもこの年からです。同六月にバレーボール部が県総体で優勝、全国総体と国体に出場、十二月には現体育館が完成し、記念招待試合が行われています。世の中では七月にアポロ十一号での人類初の月面着陸があり、前年度ピークを迎えた学生運動・大学紛争は沈静へ向かっていきますが、多くの高校で反体制の動きがあり、船高では十月に「未公認のピラ配布」の記録があります。七十年二月に初の国産人工衛星打ち上げ成功、三月には大阪万国博覧会が開幕し、よど号乗っ取り(ハイジャック)事件も起きました。四月には新学習指導要領が告示されました。

大きく変わっていく世情とそれに対応する生徒たち、そして船

高の新しい教育環境を背景として『研究紀要』が創刊されます。学校内外の激変する環境に対応し、その取り組みの過程も見直しながら、『研究紀要』を執筆するということは、大変なことでした。それを前向きにとらえていこうという機運が『研究紀要』を産んだように思えます。『研究紀要』は、船高の職員校内研究発表誌という体裁をとっており、外部への配布は企画していません。以後、関係専門機関に発表したものも本誌に転載したものも掲載するようになりません。一般的には、職員の研究は校内職員研修会で発表したり、専門研究誌に投稿したりするなど、どこかに集約されて終わってしまうのですが、『研究紀要』という形態で現在の四十三号まで続いているのは船高ならではのこともありません。

## ▼『研究紀要』の中断と復刊

『研究紀要』は二〇〇八年度三十八・三十九合併号の後、二〇一七年度に四十号が発刊され、四十一号は十九年度の発行になるなど、中断がありました。長い期間に、職員も入れ替わり、担当分掌の変更、統合が行われ、『研究紀要』の担当が曖昧になったこと、船高がいろいろな指定校になり、そちらに専念することによっていつの間になつていったこと、膨大な校務、教材研究、進路指導・部活指導や学級運営、文書・書類作成に追われ、『研究紀要』まで手がまわらないことがその理由として考えられます。



令和五年一月十七日(火)二十日(金)にかけて、「創立百周年記念かるた大会」が開催されました。かるた大会は一学年中心の行事で、HR代表ペアと有志ペアによる個人戦と、クラス対抗の団体戦があります。例年、個人戦の会場は本校セミ



# 創立百周年記念かるた大会 創立の地 船橋大神宮客殿にて開催

す。かろうじて創立百周年の準備に入る年、総務部に担当が位置づけられ、四十号を刊行することができました。コロナ禍の学校としての対応の記録を残しておく重要性が認識され、この復刊によって、『研究紀要』がその受け皿となり、『研究紀要』の意義が再認識されているところです。

執筆者紹介 山田敏明(やまだとしあき)昭和四十九年三月卒業、昭和五十四年度より令和二年度まで県立高等学校国語科教諭、令和三年度から臨任講師。平成二十一年度からの十二年間と令和四年度船高全日制に勤務。船高創立九十周年・百周年記念事業に携わる。

ナールハウス二階の和室でしたが、この度は船橋大神宮(意富比(おほひ)神社)の宮司・千葉敏様のご協力を賜り、特別に大神宮の客殿で実施されました。皆様よくご存じの通り、船橋高校は、船橋大神宮の客殿に教室を移した年を創立の年としています。このかるた大会は、「百年の節目に、船高発祥の地で是非やろう!」と、準備が進められてきたのです。本来であれば令和三年一月に実施される予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により二年延期。この一月も開催が危ぶまれましたが、感染防止対策を万全に施すことで、ようやく開催することができました。

緊張した面持ちで会場に入ってきました。客席には、百周年記念事業実行委員会から七名の方々を来賓に迎え、また一般生徒や職員も二十名ほどが応援に駆けつけました。開会式では、酒匂校長(当時)、大神宮の千葉様、そして同窓会名誉会長の子安様よりご挨拶をいただきました。船橋高校と船橋大神宮のつながり、客殿の歴史、かるた大会の思い出などのお話があり、初めて知る生徒たちは、伝統を引き継いでいく重みと、百周年記念大会に立ち会えた特別さを改めて感じて、背筋が伸びる思いだったと言っていました。

船橋高校のかるた大会は、源平戦のルールで行っています。自陣の札の並べ方も作戦のひとつとなるので、どこにどの札を置くか、どのペアも真剣に考え、悩みながら配置していました。その後、十五分間の暗記時間を経て、いよいよ試合開始。全日本かるた協会が行う公式競技会と同じ序歌「難波津に咲くやこの花冬こもり今を春べと咲くやこの花」が読まれると、会場の空気が一層張り詰まりました。

どのペアの試合も、寒さを忘れるほどに大変白熱した戦いとなりました。試合序盤から決まり字で勢いよく札を取る音が響き、札を取るとハイタッチやガッツポーズをして喜び、取られると悔しげな表情を浮かべる選手たちの様子からは、この日に向けて多くの練習を重ねてきたことが伺えました。観客は会場の緊迫した雰囲気と瞬間に繰り広げられる攻防に、手に汗を握りながら試合の行方を見守っていました。



写真⑥…会場となった明治十八年創建の客殿内部。落成から百三十四年後の二〇一九年に大掛かりな補修工事が行われた。なお同建物は非公開。写真⑦…同地に立つ創立者千葉健吉氏の碑



写真⑦…文化委員会顧問

早い段階で決着がついた試合もあれば、運命戦にまでもつれ込んだ試合もありましたが、約一時間にわたる長丁場を、選手たちは集中力を切らさず戦いきりました。試合終了後は、握手をしたり、肩をたたきあったりして、お互いの健闘を讃えあっていました。キレと迫力ある試合を披露してくれた選手たちに、観客からも大きな拍手が贈られました。





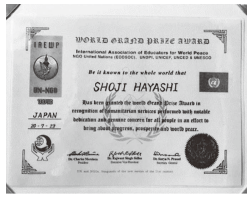
わが窓

林昇志

昭和二十八年卒  
株式会社  
グリーンタワー社主

祝世界平和大賞受賞

昨年米寿を迎え、ますますお元気に多方面で活躍されている林氏が、国連平和賞(写真右下メダル)ならびに世界平和大賞(写真左上)を授与されました。今回の「わが窓」では同氏に取材した模様をインタビュー形式でお伝えします。



【受賞までの経緯を教えてください】  
令和五年七月に国連傘下にある五団体からの推薦でふたつの賞を授与されることを知りました。これまでの私がやってきたこと、主にマラソンおよびトライアスロン大会の主催をはじめとする陸上競技関連の支援、音楽や囲碁などの文化活動への支援活動が認められ、同協会から推薦され今回の受賞に至りました。  
【林さんは船高同窓会の顧問をはじめスポーツから文化活動まで本業以外でも幅広く活躍していらっしゃいますね】

まず趣味のマラソンですが、平成二十七年の東京マラソンでは八十才台フルマラソンクラスで優勝するなどの記録を持っていました。陸上は走ることはもとより各競技大会の運営にも携わってききました。運動以外でも日本棋院で囲碁は七段、将棋は三段です。音楽の趣味はありませんが、長男(現社長)が所属していた縁で明大マンドリンクラブの演奏会をホテルで開催するなど応援しています。

【若いうちから大変ご苦労されたと伺っています】  
父は戦前に山梨から上京し私は昭和九年に西栗鴨で生まれました。その後戦争で焼け出された私の家族は千葉に開拓団として今の積橋地区に入植し、当時小学五年生だった私も開墾を手伝いました。船高時代はまだ生活が苦しく、学校から帰ったら家の手伝いに追われ勉強しているヒマはありません。大学進学はどうに諦めていました。昭和二十八年に卒業してすぐ証券会社に就職しますが入社一カ月で倒産。悩んだ挙句、当時入植地を追い出され転居した西千葉の家の一角で知り合いの板前と寿司屋を開業しました。今も続く「みどり寿司」はこれが始まりです。

【その後さらに事業を大きくされていくのですか】  
私は昭和三十七年、二十七歳の時に結婚したのですが当時オープンしたばかりの京成ホテル(現・ミラマール)で式を挙げました。当時はまだホテルでの結婚式は珍しく羨ましがられたものです。そこで私は『これからはホテルでの結婚式が増える』と直感し、ここからホテル業の勉強を開始しました。そして平成三年ついに念願

だったホテルグリーンタワー幕張をオープンすることができました。しかし長い人生何が起るかわかりません。開業直後のバブル崩壊、東日本大震災、そして今回のコロナ禍と大きな嵐が次々に押し寄せます。しかし何とか苦難を乗り越えながら今日まで事業を継続し、息子に社長をまかせるまでになりました。

【もうすぐ卒寿を迎えられますが健康の秘訣は】  
マラソンで体を鍛え、囲碁で頭を刺激する、サービスマンの経営者としての気配りを忘れない、これらが健康の秘訣でしょうか。そして家族へ愛情を注ぐことですかね。

【林さんはどんな船高生だったのでしょうか】  
船高へは特待生として入学できましたが生活は苦しく弁当も満足に持っていけませんでした。貧しいのは私に限らずその頃の船高生には似たような境遇の生徒が多かったのです。そこで私は学校に交渉して購買部を作り同級生と協力してお昼に牛乳とパンを売らせてもらいました。そこではわずかですが利益も出せたことから商売の面白さを知りました。これが経営者としての原点です。

【最後に若い人々へのメッセージをお願いします】  
体力と気力を鍛えておけば大概の苦難は乗り越えられます。私が好きなマラソンは苦しいスポーツです。でも我慢して続ければ、その結果つらいことを乗り越えるのがいんですよ。

【取材を終えて】  
背筋がすっと伸びた立ち姿を見るにつけ、マラソンで鍛えたスリムな体格もあってその格好良さは羨ましく「私もこんなカッコいいお年寄りになりたい」とお会いするたびに思われます。ところで今回初めて知ったのが創業した「みどり寿司」の名は妹さんの美鳥からとったそう、私はつきりグリーンタワーの名からして緑色のことかと勘違いしていました。いずれでもお元気で活躍されることを祈りつつインタビューを終えました。

【取材 大浦成子・森和俊】  
【国連平和賞(こくれんへいわしやう、英語表記: United Nations Peace Medal)は、国際連合が発行するメダル顕彰のひとつ。国連ピース・メダルとも日本語表記される。受賞者には、ミュージシャン、文化活動家、政治家、宗教家、映画監督などがある。世界平和大賞(せかいへいわたいしやう、英語表記: World Grand Prize Award)は、国連の機関である世界平和教育者国際協会(AEWP-NGO UN=The International Associations of Educators for World Peace)により授与される賞で世界平和を前提としたさまざまな人道主義的な活動に従事した者に与えられる名誉ある世界的な賞である。なお同協会が、国連経済社会理事会(ECOSOC)、国連広報局(UNDP)、国連児童基金(UNICEF)、国連環境開発会議(UNCED)、国連教育科学文化機関(UNESCO)を合併した組織で、教育を通じて国際理解と世界平和を達成することを目的とした非営利、非政府組織です。IAEWPは、国連の委任の下でNGOとして活動しており世界中に百以上の支部が設立されています。



写真左 世界平和大賞の賞状を手にする林氏(鮎野みどりの前)





# 船高記念演奏会から

船高記念演奏会実行委員会  
副実行委員長 大浦成子(昭和49年卒、同窓会副会長)

創立百周年を記念して企画された「千葉県立船橋高等学校創立百周年記念 在校生・卒業生合同演奏会」が二〇二三年一月二十二日に習志野文化ホールで開催され、誰でも参加できる百周年をお祝いする貴重なイベントとして成功を収めました。満席に近いお客様に感動を与えることができ、船高生のポテンシャルの高さを広くアピールできたものと自負しております。同窓会のお力添えはもとより、多大なる寄付にご協力いただいた方々には、この場を借りて感謝申し上げる次第です。

この演奏会の構想は、創立八十周年の頃「百周年にはベートーヴェンの第九を」というオーケストラ(以下オケ)部OBの声がきっかけでした。時は流れ平成三十年秋にオケ部と合唱部の卒業生、現職の顧問の先生ら二十人が集まって「船高記念演奏会実行委員会」を立ち上げ計画作りに着手。当初は学校と同窓会が進める「創立百周年記念事業」からは独立した形で記念演奏会の準備は進められ、二〇二〇年十二月開催を目指し、参加者三百人を超える一大プロジェクトがスタートしたのです。



事業を進める三大要素は「ヒト、モノ、カネ」です。ご存知のように第九はオケと合唱団の協同作業でソリストは四名必要です。今回は、これらを全て船高生(在校生・卒業生)と船高関係者(教職員含む)で揃えるという難題に挑みました。幸いなことに指揮者に、プロで活躍している田久保裕一氏(昭和五十一年卒)を迎えることができ、オケ部と合唱部の卒業生による「ヒト」の輪が広がっていききました。

次は演奏会場と練習場所(モノ)の確保です。規模と音楽的な適性を考えると利用会場には限りがあり、今回はJR津田沼駅前の習志野文化ホールを第一優先としました。しかし公施設は開催希望日が必要な場合抽選という関門があります。私たちはあくまで母校の百周年である二〇二〇年の年内開催を希望していたのですが最初の抽選に外れ、年明けようやく一月の開催日が決定しました。そしてこれを起点に練習計画の準備が始まりました。



オケと合唱の参加者募集を開始したのは二月。しかし世の中は次第に新型コロナウイルスの渦に巻き込まれていくのです。そして八月には開催中止という苦渋の決断をすることになりました。同時に学校や同窓会でも船高創立百周年記念事業の関連行事が中止もしくは縮小される結果になったことは記憶に新しいところ

です。当初予定の二〇二一年一月はコロナ禍で過ぎ、翌二年目の冬にいくらかコロナ禍が落ち着き始めたため「ホールの予約だけは入れておこうか」と二〇二三年一月二十二日の習志野文化ホールを確保しました。そこから半年近くを経過した六月下旬に実行委員会を二年越しで再スタート。七月三日にはオケ、合唱それぞれの初練習を母校で開催するところまでこぎつけました。

さていよいよ資金(カネ)の確保です。当初より入場は無料としていましたので今回の資金源は演奏者の参加費(社会人のみから徴収)と寄付で賄うのが当初の計画でした。ところがコロナ対策として合唱団の人数を半分以上に絞り込まざるを得なくなり参加費収入の計画に狂いが生

## ◆演奏参加者と来場者から寄せられた感想

◆出演者の皆さん練習に大変苦勞されたと思いますが歴史に残る素晴らしい演奏会でした。世代を超えた多くの出演者の迫りに圧倒されました。◆先日の演奏会とても素敵でした。幅広い年代の卒業生さらに現役生も加わって素晴らしいコンサートができるのはすごい！懐かしい校歌を皆さんと歌えなかったのは残念でした。◆演奏者と聴衆が一体となった記憶に残る演奏会でした。コロナ感染が続く中で演奏に参加された方や事務局の方には沢山のご苦勞があったと思います。心より感謝いたします。◆本番では第九を歌えた喜びで感激しました。リハとはぜんぜん違う全員がギアをあげてきた感じがすごかったです！このような会をまとめてくださった方々には感謝しかありません。◆今回の演奏会の実行委員会の皆様から御礼を申し上げます。久しぶりの合唱への参加で不安でいっぱいでしたが、1回目の練習から本番まで貴重な忘れたい時間を過ごすことができました。多くの仲間たちとの再会、広い世代の船高OB・OGの方々の新しい出会い、真剣に取り組んだ演奏など、一生の思い出になりました。これほどの大きなイベントが大成功をおさめられたのも、皆様のお骨折りのおかげと心から感謝しております。御礼の気持ちをごとこ表わすことが難しいと思うほどです。◆素晴らしい演奏会に友人が出演。久しぶりに友人に会えて素晴らしい演奏を聴けて若返った気分になりました。◆娘が現役の合唱部員ですが記念演奏会に参加させていたでいることを誇りに思いました。第九は本当に素晴らしい演奏と歌声に心震えました。船高の伝統と歴史はこれから更に未来へつながりますね。

じます。在校生はもとより大学生の参加は無料としていたので、コロナ禍による社会人の参加者減少は資金不足に直結しました。そこで、百周年記念事業を十分に開催することができなかつた同窓会に共催を提案して資金の援助を仰ぎました。こうしてようやく船高百年の歴史で初めてとなる、在校生と卒業生の合同演奏会が実現したのです。昭和二十八年の卒業生から平成生まれの在校生という幅広い年齢層が一堂に会して交流することは同窓会の目指す方向の一つであり、創立百周年も含め将来に向けた布石となつたことは間違いありません。

【寄付の報告】  
演奏会場での寄付ならびに実行委員会への寄付と合わせた合計百二十三万四千円をオーケストラ部と合唱部へお渡ししました。多くの皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。  
(実行委員長 山本敬久)

### 陶芸部 かごしま総文に参加

陶芸部2年生5名は、かごしま総文(第47回全国高等学校総合文化祭)に参加した。かごしま総文美術・工芸部門は7月29日から31日まで鹿児島市にて開催された。

展示された作品(左下写真)はステンドグラスと陶芸で作成した「Blue Planet」。海をモチーフにした球体部分をステンドグラス、土台や波をイメージしたオブジェを陶器で作成した。2・3年生10人で制作したが、かごしま総文へ参加した生徒は2年生5名であった。

初日は鹿児島県総合体育センター体育館にて開会式、交流会が行われた。交流会では鹿児島島の伝統工芸である大島紬の布切れを起き上がり小法師に貼り付けるという個人制作をグループごとに行った。この起き上がり小法師は「オツのコンボ」と言われ、家族の無病息災を見守る幸福の守り神である。優しい小法師、かわいい小法師、シユールな小法師など、生徒の個性が見られた。

2日目は作品鑑賞と交流会が市立美術館と鹿児島県歴史・美術館センター黎明館で行われた。グループごとにメンバーが制作した作品を訪れ、プレゼンし感想を述べた。全国展にふさわしい力作揃いであった。

3日目は鹿児島県総合体育センター体育館にて作品講評、講演会と閉会式が行われた。作品講評では参加作品400点の中から5点が選出された。講演会は上国料勇氏による「絵を描いて生きていくこと」。上国料氏は鹿児島県出身のスクエアエニックスのイラストレーターであり、

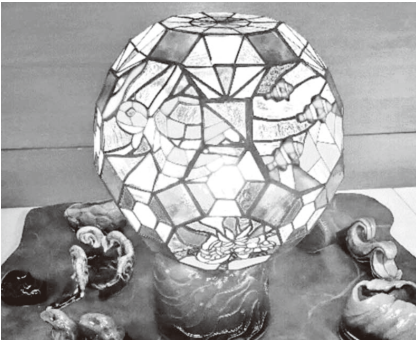
ファイナルファンタジー10からアイトイレクターとして活躍されている。高校時代から精力的に制作を行われていたことや、職業画家として功された歩みなどのほか、作画に関する技術的なお話も聞くことができ、大変興味深かった。

全国大会に参加している生徒・教員は美術に真剣に向き合い、向上心にあふれ、何より深い美術への愛好心を持つ方ばかりで、大変心地よい時間を過ごすことができた。

以下、時間をやりくりして楽しんだ鹿児島観光について。初日、路面電車、鹿児島名物さつま揚げ、白くまアイスの発祥地・天文館むじやきにて800円の白くまアイスのかき氷、夕食は黒毛和牛のなんちゃら。

2日市立美術館そばの西郷隆盛像西南戦争の砲弾跡、西郷が最後の5日間立てこもった洞窟、自決の地。フェリーに乗って桜島、展望台、黒豚のとんかつ、古民家風のカフェでスイーツを食べる。3日目仙巖園にて薩摩切子ガラス体験、郷土料理、大雨、薩摩芋スイーツ。

参加した5名の心に楽しい思い出として残れば良い。それにしても、暑かった!



### 全日制ソフトテニス部 千葉県高校総体男子団体第3位

競技人口が、今や中学から高校で四分の一未満に減るソフトテニスだが、本校では毎年途切れずに部員が入部し、関東県予選を見据えて「向かっていく」「考える」テニスをモットーに練習している。

今年のチームは、団体は県ベスト16、個人は5ペアが地区を突破し、県ベスト16、32、64と3ペアが総体シードを獲得。石原・鈴木組は念願の関東大会出場を果たし、チームの絆とテニスへの愛が結実した感があった。そして関東の翌週が3年生の最後の大会となる総合体育大会。大会が続いた上、雨での延期も多く、疲れもあったが、最後の一花を精一杯咲かせようと臨んだ大会だった。

個人戦は4ペアが参加し、ベスト16と64に3年生のペアが入って終わり、その翌日が団体戦だった。初戦(2回戦)中央学院戦を3-0で勝ち、3回戦の姉崎戦は緊張する場面もあったが乗り越え、2-1で勝利して初日は終了。翌日4回戦の柏中央戦となった。雨の中、一番に出た永池・工藤組は拮抗した試合で、ロブとスマッシュを中心に攻め、4-2で勝利。2番の石原・鈴木組は、相手の大将と接戦の末、3-4のファイナル負け。三番勝負で土橋・井出組が、応援と緊張を闘志に替えた力強いプレーで、4-2で勝ち、ベスト8入りした。続く5回戦は拓大紅陵戦。1番はひたむきな石原と知的かつ積極的な鈴木をすばらしいコンビネーションが相手を追い詰

め、4-1で勝利。2番に出た土橋・井出組は、そのまま強気で押し切り、相手に攻撃のチャンスを与えないまま、4-0で圧勝。準決勝進出となった。相手は千葉県随一の実力と実績を誇る木更津総合高校。その技術の高さをまざまざと見せつけられて、0-2の完敗だった。

しかし、ゲームの展開を考えて勝負し、攻撃されても食らいつついて粘る姿勢は、ゲームを盛り上げ、感動を生んだ。応援もすばらしく、チーム一丸となって戦い、楽しんで。福田・小村・末崎・熊倉・山田を加えた3年生の力が大きかった。石津学年、田辺学年と一緒に長くボールを打ち合い、伝統を受け継ぎつつ、誠実でひたむきなチームカラーを作り上げていた。

公立の進学校で勝ち上がるのは大変難しい。今年では2年生4人、1年生9人(内初心者5人)で、新しい局面を迎えた。しかし、日々向かっていく中で、考え試行錯誤し、自分のテニスを創り上げる伝統は受け継ぐに違いない。

(全日制ソフトテニス顧問吉野麻子)



### 令和五年度 在校生の活躍

〈記号説明〉  
母校応援費の支給対象▼◎全国大会、○地方大会(全国大会の予選を兼ねるもの、関東大会など)  
◎地区大会(県大会など) ▼①新人大会、②関東大会予選、③県総体、④千葉県高等学校校定時制通信制体育大会、⑤その他D・ダブルス、S・シングルス

〔全日制〕  
◎運動系部活動  
ソングリーディング  
ソングリーディング  
令和4年度全国高等学校ダンスドリル冬季大会SONG部門  
Medium編成高等学校校団体 第10位  
◎USA School & College Nationals 2023全国選手権大会13位 ○ダンスドリル秋季関東高等学校団体9位  
◎Medium編成高等学校校団体9位  
◎東日本高等学校ダンスドリル競技大会5位

アーチェリー  
令和4年度関東高等学校アーチェリー選抜大会70mR女子個人17位  
植村  
①女子団体3位(寺嶋・植村・小出・岡本・酒井、男子団体5位(齊藤・今泉・藤代・金井・網倉、女子個人6位植村、13位小出、14位岡本、16位酒井) ②男子団体5位(齊藤・金井・藤代・網倉、女子団体5位(寺嶋・植村・小出、70mR女子個人3位(齊藤・今泉・金井・藤代・網倉・李、女子団体5位(寺嶋・植村・酒井、70mR男子個人10位藤代、同12位 網倉、同13位 齊藤、同14位 李) ⑤令和5年度千葉県高等学校アーチェリー選手権大会男子団体5位(齊藤・今泉・金井・藤代・李)、女子団体4位(寺嶋・植村・小出) 70mR女子個人ベスト16 植村、小

陸上競技  
◎総体関東大会女子400mH出場 山田  
①男子3000mSC県大会6位  
岩崎、女子400mH県大会7位 山田  
②女子400mH県大会6位 山田

水泳  
◎水球7位、競泳男子100m自由形7位 小林、同200m自由形7位 大久保、同100mバタフライ8位 齊藤

◎水球7位、競泳男子100m自由形7位 小林、同200m自由形7位 大久保、同100mバタフライ8位 齊藤



令和六年「春の同窓会」ご案内

実行委員長

高瀬 賢治(昭和五十四年生)

皆様、大変お待たせいたしました。三年間開催が見送られてきた「春の同窓会」が令和六年二月十一日、四年ぶりに開催できる運びとなりました。選歴を迎える年次が幹事を務めるといふ慣例がコロナ禍で四年ずれ込み、今回幹事学年を務めます我々昭和五十四年卒業生は令和五年度に誕生日を迎えると六十三歳になります。来年以降もここで生じたずれ込みはそのまま継承されてゆくことになり、後輩諸君もよろしくお願ひします。

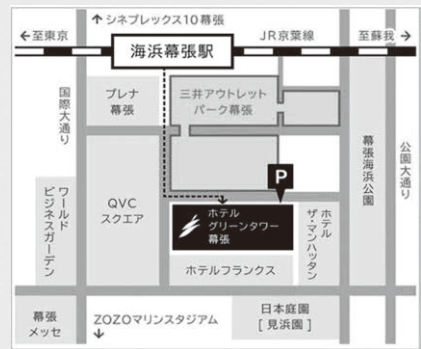
前回まで春の同窓会は船橋市内のホテルで開催されておりましたが、コロナ禍のなか閉鎖。その後名前を変えてオープンしているものの収容人数に無理があるため、今回からは幕張新都心に位置する「ホテルグリーンタワー幕張」にて開催します。同ホテルは昭和二十八年ご卒業の林昇志先輩が社主であり、正に「春の同窓会」に相応しい会場だと思います。我々が卒業した昭和五十四年から早や四十五年近くの歳月が流れ、船橋駅付近も大きく変貌を遂げております。しかしながら母校は健在で、現在進められている長寿命化改修工事により当時の校舎がそのまま残ると聞いて感無量であります。また同窓会では、各界で活躍されている同窓生の消息を知ること大きな励みです。当日は三連休のど真ん中ではありませんが、皆様お誘い合わせの上四年ぶりに開催される「春の同窓会」への積極的なご参加をお待ちしております。

春の同窓会
ホテルグリーンタワー幕張4階
ロイヤルクレセント

2024年2月11日(祝・日)
12:30開演
開催案内

- ◆受付 午前11時30分から12時20分まで4階宴会場入口にて
◆開宴 12時30分(15時30分閉演の予定) ※冒頭に同窓会からの報告と片渕須直氏(昭和54年卒、映画監督)のミニ講演があります。
◆会費 10,000円
◆返信葉書の記入について
【出席の方】 同封の返信葉書(切手不要)に必要な事項を記入の上2024年1月5日までに投函して下さい。
【欠席の方】 欠席のみのご返信は不要です。ただし住所等の変更がある方、通信欄を記入される方は必要事項を記入の上1月5日までに投函して下さい。
◆その他
【会場の座席】 会場でのお席は円卓別に指定されますので当日配布される次第書にてご確認ください。なお食事は着席で個別に給仕されます。
【ご注意】
①急用による欠席については2月10日までに下記へ必ずメールして下さい。funako100dai9@gmail.com
②出席のお申込み無しに当日来場された場合、入場をお断りすることがあります。
③学校及びホテルへは問合せできません。

- ◆会場までの交通
●電車でお越しの方はJR京葉線 海浜幕張駅より徒歩約3分、JR総武線・京成線 幕張本郷駅からバスで15分海浜幕張駅(終点)下車後徒歩約3分です。
●お車の方はホテルの駐車スペースに限りがあります。満車の場合は近隣の有料駐車場をご利用下さい。
《会場周辺地図》
千葉市美浜区ひび野2-10-3



おたより彼れ是れ

- 山田(相川)幸子(昭和27年生)
毎年続けていたクルス会もコロナ禍のため令和4年の10回目をもって中止しました。クルスの半数以上の皆様がお元気で令和5年に卒寿を迎えます。素晴らしいことです。又後輩や在校生の多方面にわたる大活躍に船高の卒業生でよかったです。素晴らしいことです。益々の発展と活躍を祈念して居ります。
●土屋政昭(昭和31年生)
初めて同窓会運営費をお送りします。私が入学した時の一年生の教室は一番東側にあり南北に細長い平屋の古い木造校舎でした。教室の窓から習志野にある空挺団の落下傘の降下訓練に使う高い鉄塔が見え吊り上げられた落下傘が落ちていくのが見えました。一年に一度農学科の校舎まで往復するマラソン大会がありました。
●小谷野俊夫(昭和40年生)
英文の経済学書を翻訳しています。今年11冊目としてケインズ全集の第20巻を出版いたしました。船高で英語を鍛えられたおかげだと思っております。
●川田千恵子(昭和41年生)
令和4年9月に後期高齢者の仲間入りでしたがまだ現役でベンチャー企業の支援サービスの仕事を続けております。
●平畑儀子(昭和42年生)
創立百周年記念在校生・卒業生合同演奏会に行くことができました。元器楽部です。迫力ある素晴らしい演奏を堪能しました。

今号も全会員にお届けできました。改めて多くの方々のご協力に感謝申し上げます。さてコロナ禍が落ち着き始め「さあこれから」といろいろ活動を再開された方も多いかと思えます。しかしそれに水を差すかのように世の中は値上げブームの嵐が吹き荒れています。ご多分に漏れず同窓会だよりも製作費が値上がり、従来別印刷していた春の同窓会の案内も誌面の中に入れコストを抑える等工夫を重ねているところです。こうなったら同窓会運営費も上がる、じゃなくて増えてくれたらいいなと願うばかりです。(森 和俊 記)

た。後生畏るべしです。●家人(平野)弥生(昭和49年生)
「船高図書館の書庫から」に生徒が立ち上げた図書館活動とあります。私が在籍した3年間もクラブ制委員会でした。暑い夏の曝書を行ったことや貸出業務を行ったこと、そして何より図書準備室で仲間と語り合ったことなどを思い出しました。●宮崎(藤井)久美子(昭和57年生)
「同窓会だより」をきっかけに念願の第九を歌うことができました。ありがとうございます。

編集後記